

# 使徒聖パウロキモテオに贈りし後書簡

## 冒頭

第一章 神の思召によりキリスト、イエズスに於る生命の約束に従ひてキリスト、イエズスの使徒たるパウロ、二至愛の子キモテオに「書簡を贈る」。願はくは父にて在す神、及び我主イエズス、キリストより、恩寵と慈悲と平安とを賜はらんことを。

## 第一編 福音の為に懼なく戦ふべし

### 第一項 キリストに忠實ならんことを勧む

三 我が祖先以來潔き良心を以て奉事せる神に感謝し奉る、蓋晝夜祈禱の中に絶えず汝を記念し、四 汝の涙を追想して、喜に満たされん為に、汝を見ん事を欲す、五 是汝に在る偽なき信仰の記憶を有てるによりてなり、此信仰は曩に汝の祖母ロイズと母ニケとに宿りたれば、汝にも亦然ある事を確信す。六 是故に我按手によりて、汝の衷なる神の賜を更に熱せしめん事を勧告す、七 其は神の我等に賜ひたるは、臆する靈に非ずして、のりよく慈愛と節制との靈なればなり。八 然れば我主に對する能力と慈愛と節制との靈なればなり。九 神の我等を救ひ、且聖なる召を證明と、其囚人たる我とに耻づる事なく、神の能力に應じて福音の為に我と共に苦を忍べ。九 神の我等を救ひ、且聖なる召を

以て召し給ひしは、我等の業によれるには非ず、御自らの規定により、又イエズス、キリストに於て世々の以前より我等に賜ひたる恩寵によれるなり。一〇 此恩寵は、今我救主イエズス、キリストの頭れ給ひしによりて證せられたり、即ち彼は死を亡し、福音を以て生命と不朽とを明にし給ひしなり。一 我は此福音の為に立てられて、宣教師たり、使徒たり、異邦人の教師たり。二 又之が為に斯る苦を受くこと雖も之を耻とせず、其は我が信頼し奉れる者の誰なるかを知り、且我に委託し給ひしものを、彼日まで保ち給ふ能力あるを確信すればなり。三 汝我に聞き健全なる言の法を守るに、キリスト、イエズスに於る信仰と愛とを以てし、一四 委託せられし善きものを、我等に宿り給ふ聖靈によりて保て。一五 「小」アジアに在る人々の、皆我を離れし事は汝の知る所にして、フィゼロとヘルモゼネスと其中に在り。一六 願はくは主オネジフォロの家に憫を賜はんことを、蓋彼は屢我を勵まし、我鎖を耻づる事なく、一七 ロマに來りし時切に尋ねて我を見出せり。一八 願はくは主彼日に於て、彼に主より憫を得させ給はん事を、彼がエフェゾに於て我を厚遇せし事の如何ばかりなりしかは汝の尚能く知る所なり。

### 第二項 勞苦に拘らず勇氣を振ふべし

第二章 然れば我子よ、汝キリスト、イエズスに於る恩寵に愈堅固なれ。二 然て、數多の證人の前に我より聞きし事を、他人に

教ふるに足るべき、忠實なる人々に托せよ。三 キリストの善き軍人として共に苦を忍べ。四 軍人は生活の事を以て己を煩はさずして、寡りし者の心を獲んとす。五 又勝負を争ふ人は規定に従ひて争はざれば冠を得ず。六 辛勞する農夫は先其産物を獲ざるべからず。七 我が言ふ所を悟れ、主は萬事に就きて汝に悟を賜ふべし。ハ タウイドの裔に在る主イエス、キリストが、我福音の儘に死者の中より復活し給ひしことを記憶せよ、九 我は此福音の為に苦を嘗めて、悪人の如く鎖に繋がるるに至れり。然れども神の御言は繋かれず、一〇 故に我は選まれたる人々の為に萬事を忍ぶ、是彼等をしてイエス、キリストに於る救霊と天の榮光とを得しめん為なり。一 眞實の談なる哉 我等キリストと共に死したるならば、又共に活くべし、二 忍ばば又彼と共に王と成るべし、我等若彼を否まば、彼も亦我等を否み給ふべし、一三 我等は信ぜざる事ありとも、彼は絶えず眞實にて在る、其は己に違ひ給ふ事能はざればなり。

## 第二編 謬説と棄教とを防ぐべし

### 第一項 謬説に對する處置

一四 汝人々をして是等の事を思出さしめ、又主の御前に保證して、口論する事を戒めよ、口論は何等の益する所なく、聞く人をして亡に至らしむる耳なればなり。一五 汝神の御前に於て鍛錬

したる者、耻づる所なき働人、眞理の言を正しく扱へる者たらん事を努めよ。一六 世俗の無駄話を避けよ、蓋之を為せる人は、大いに不敬虔に進み、一七 其話の広がる事は脱疽の如し、ヒメネオとフイレトと其中に在りて、一八 復活は既に在りきと稱へて眞理を脱し、或人々々の信仰を覆へせり。一九 然れど神の据象給ひし堅固なる基礎立ちて、其上に次の如く録されたる印章あり、曰く、「主は己のものを知り給ふ」、又曰く、「総て主の御名を稱ふる人は不義を離るべし」と。二〇 抑 大いなる家の中には金銀の器のみならず亦木と土との器ありて、或物は尊き用を為し、或物は卑しき用を為す。二一 然れば人若彼人々を離れて己を潔くせば、尊き器 聖とせられ且主に有益にして凡ての善業の為に備はれる器と成るべし。二二 汝若氣の欲を避けて、義と信と愛とを求め、又潔き心を以て主を呼憑み奉る人々との和合を求めよ。二三 然れど愚にして無學なる探求は、是争論を起すものなりと悟りて之を避けよ。二四 主の僕は争論すべきに非ず、却て一切の人に柔和にして、善く教へ且忍耐し、二五 眞理に逆らふ人々を戒むるに謙讓を以てすべし。或は眞理を覺らしめん為に神彼等に改心を賜ひ、二六 彼等は何時しか目を覺して、悪魔の罟を逃るる事あらん、其は彼が、随意虜と為られたればなり。

### 第二項 教會の危険の要求

第三章 汝之を知れ、末の日頃に至りて困難の時あるべし。二

人々己を愛し、利を貪り、奢り驕り罵りて、親に従はず、恩を知らず、聖ならず、三情なく、和がず、讒誘し、節制なく、温和ならず、善を好まず、四叛逆、横柄、傲慢にして、神よりも快樂を愛し、五敬虔の姿を有しつづ、却て其實を棄つる事あらん、汝彼等をも避けよ。六其中には人の家に潜入り、女等を虜にして誘ふ者あり、是等の女は罪を負ひ、種々の慾に引かれて、七常に學べども眞理の知識に達せず、八恰もヤンネスとマンプレスとがモイゼに逆らひし如く、此人々も亦眞理に逆らひ、精神腐敗して信仰の廢れたる者なり。九然れど彼等は尚此上に進む事なかるべし、蓋其愚なる事の衆人に明なるは、彼二人に於て在りしが如し。一〇汝は我教、行状、志、信仰、忍耐、慈愛、堪忍、二受けし迫害にも、苦にも善く之に従へり。我アンチオキア、イコニヨム、及びリストロに於て、斯る事に遇ひ、其の迫害を忍びたりしが、主は総て是等の中より、我を救出し給ひしなり。三総てキリスト、イエズスに於る敬虔を以て世を渡らんと決せる人は迫害を受くべく、二三又悪人及び人を欺く者は愈、惡に進みて、自ら迷ひ人をも迷はずに至らん。四然れども汝は學びし事、確信せる事に止れ、其は如何なる人々よりの之を學びしかを知り、二五又幼少より聖書を知ればなり。即ち聖書はキリスト、イエズスに於る信仰を以て、汝を救霊の為に敏からしむることを得、一六聖書は皆神感によるものにして、教授するに、勧告するに、譴責するに、正義に於て教育するに有益なり。一七是神の人

の全うせられて、凡ての善業に備へられん為なり。

第四章一我神の御前、又生者と死者とを審判し給べきイエズス、キリストの御前に於て、其公顯と御國とに對して希ふ、二汝御言を宣傳へて、時なるも時ならざるも、切に勧め、忍耐を盡し、教理を盡して、且戒め且希ひ且威せ。三蓋時至らば、人々健全なる教に堪へず、耳痒く且私欲のまにまに己が為に教師を蓄へ、四耳を眞理に背け、身を寓言に委ぬるに至らん。五然れど汝は慎みて萬事を凌ぎ、福音師の業を為して己が「聖」役を盡せ。六蓋我は最早供物に濯がれ、去るべき時期切迫せり。七我善き戦を戦ひ、走るべき道を果たし、信仰を保てり。八殘る所は、正義の冠我為に備はれるのみ、正しき審判者にて在す主は、彼日に於て之を我に賜ふべく、而も獨り我のみならずして、其降臨を愛する人々にも賜ふべきなり。

### 結末

八急ぎて我許に來れ、九蓋デマスは此世を好み、我を棄ててテサロニケに行き、一〇クレゼンスはガラチアに、チトはダルマチアに行き、ニルカ一人我と共に在り。汝マルコを誘ひて共に來れ、其は彼は「聖」役の為に我に益あればなり。三チキコは我之をエフェソに遣はせり。三汝來る時、我がトロアデにてカルフポの家に遺置きたる上衣と書物と、特に羊皮紙とを持來れ。一

四 鍛冶屋アレキサンデル大いに我を惱せり、主は其業に應じて  
報い給ふべし、一五 彼は甚しく我言に逆らひし者なれば、汝も之  
に遠ざかれ。一六 我初の弁護の時、我に立會ふ者一人もなく、皆  
我を棄てたり、願はくは其罪を彼等に歸せられざらん事を。一七  
然れど宣教が我を以て全うせられ、凡ての異邦人の聴かん為に、  
主は我と共に立ちて我を堅固ならしめ給へり、斯て我は獅の口  
より救はれたるなり。一八 主は我を一切の惡業より逃れしめ給  
ひ、尙其天國に於て我を救ひ給ふべし、主に世々光榮あれかし、  
アメン。一九 ブリスカとアクイラとオネジフォロの家とに宜し  
く傳へよ。二〇 エラストはコリントに留りしが、トロフィモは病  
ありて、我之をミレトに遣せり。二一 冬に先ちて急ぎ來れ、ユウ  
プロとブデンスとリノとクロオディアと凡ての兄弟と、汝に宜  
しくと言へり。二二 願はくは主イエズス、キリスト汝の靈と共に  
在し、恩寵汝等と共に在らん事を、アメン。